

杖乘教幹事  
兼權中教正  
真培百爾閱

是

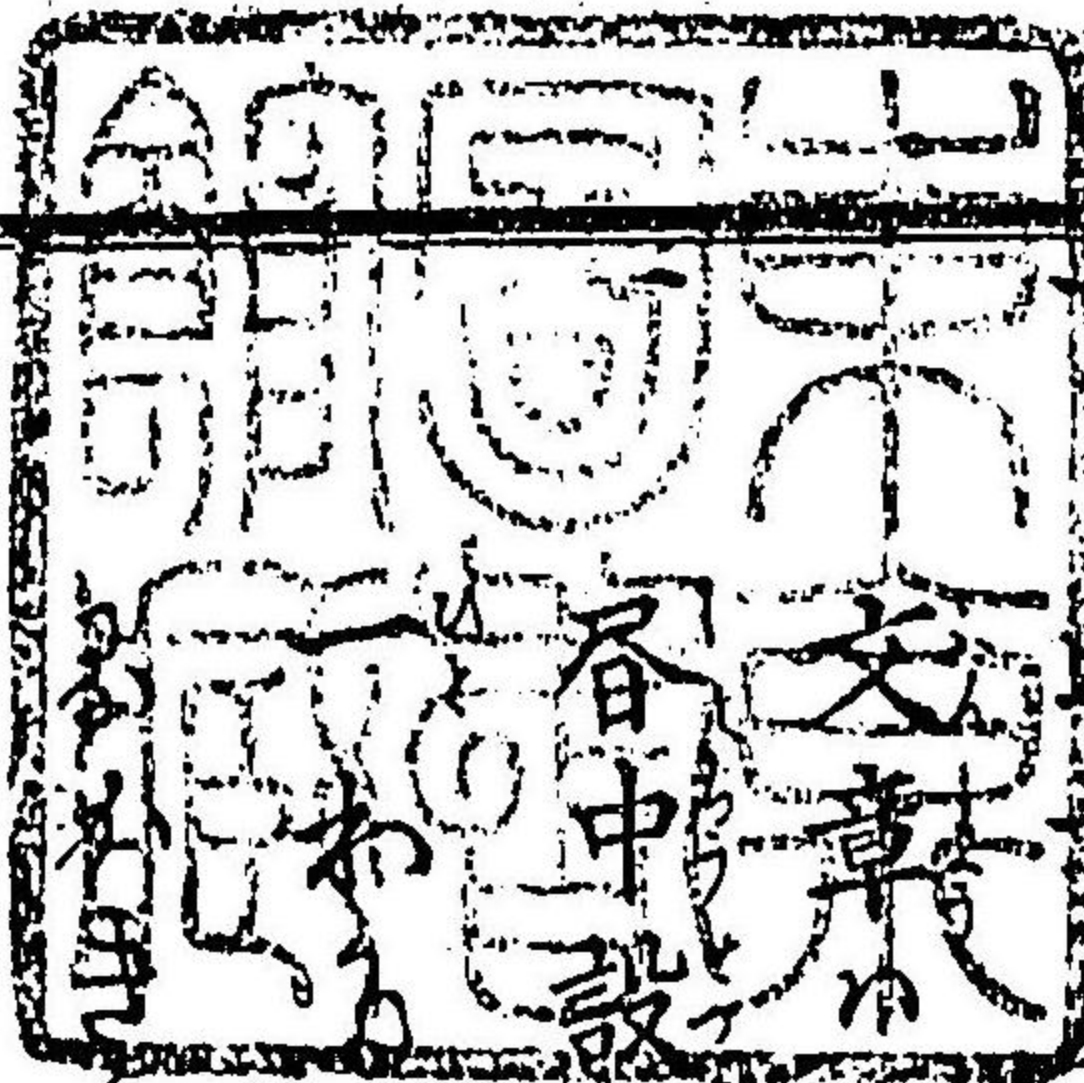
學并分書  
同術



473/73

扶桑教祭祀式

例言



此書の本教の祭式を一定せん為に作きたる也

専ら解し易き以主と次

各中設備とあるハ祭場の裝飾器具此要なる也

りあけつ但し便宜により大体以らんざ

るも多少變更はるも妨者

一 祭の時教會所或ハ人家にて行ふに床に神籬

以樹つるか御身被とくふる何れにてもよく

一 上棟祭に餅錢など投ぐる風習の地方にては之

を神饌と共に供へ祭了りて投ぎへ





一 祝詞文例中□祭□神あどあるは其祭の名又ハ  
 神の御名紙書入也職名姓名とあるも奉仕る教  
 職の職名と苗字名紙昏入るへき印あり  
 一 祭場の座取器具及所作一切の文章のみよて會  
 得しがさきハ卷末に圖畫紙挿入たり  
 一 下卷の末に祝詞文例のみとあけたるも其式紙  
 大祭式にからひて行ふ途

編者識

扶桑教祭式目錄

上卷

- 一 祓式 附祓詞文例 一 大祭式 附祝詞文例
- 一 地鎮祭式 附祝詞文例 一 上棟祭式 全上
- 一 新殿祭式 全上 一 宮門祭式 全上
- 一 遷座式 全上 一 大祓式 全上

下卷

- 一 祈年祭式 附祝詞文例 一 鎮火祭式 附祝詞文例
- 一 道饗祭式 全上 一 鎮魂祭式 全上
- 一 竈神祭式 全上 一 遙拜式 全上
- 一 祈雨祭祝詞 一 祈晴祭祝詞



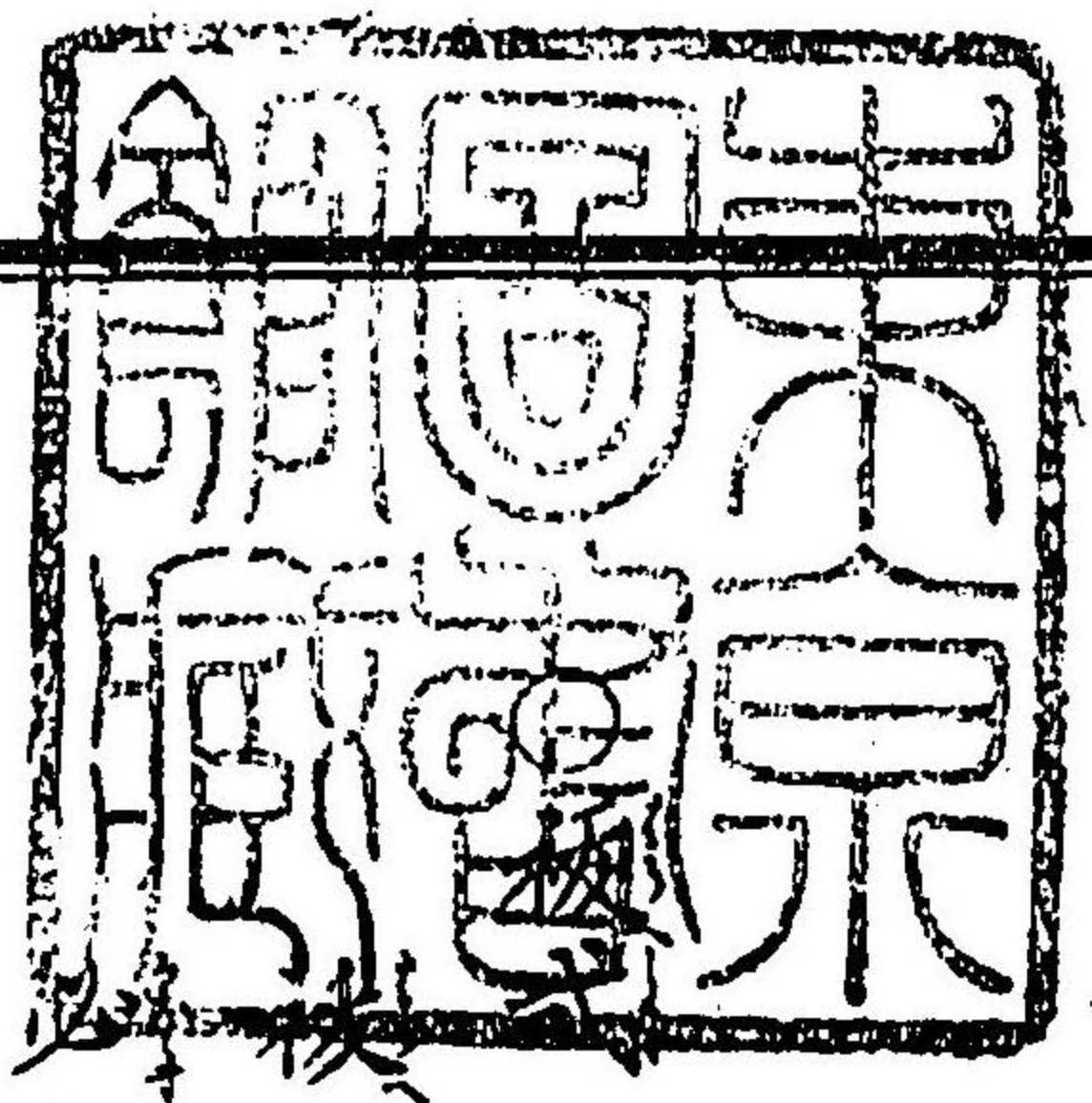
- 一 酒神祭祝詞
- 一 除蝗祭祝詞
- 一 遷靈祝詞
- 一 祈漁祭祝詞
- 一 蠶祭祝詞
- 一 新年祭祝詞

目次畢

扶桑教祭祀式

權中教正 高崎市藏 校閱

櫻木松壽 同編  
本多清之助



後を汚し後清むる式を連バ何の祭にても  
必行ふ前にとるなり

式場の設備

後所を祠宇の庭上或は前殿教會所あらばその傍  
側ふど便宜の所に設け正面に桜を据え上に後具  
二尺四方の檜の板を敷く其前に後主の版位を麻綿



の類いつれも白きを設く

先齋主以下着坐

次被主被詞以讀む

祭員一人被一揖一座立ち。左足右足進出して左足より並版位の前にて一揖着坐一揖懐中の被詞を取り笏にそへて二拜。左傍にて開き奏讀す。了て左傍にてたゞみ。二拜一懐中にてをさる。二ツ拍手一揖して退く。

次被具取りて被ふ

祭員一人一揖して立ち被具の前にて一揖座して其体神取。右手を先左手に後より。兩手ひ更

持替て右手を神の本へ左一揖。先つ神饌の前に

いより初の如く取直し左右左と三度打振又持直し齋主以下被はらふこと神饌の儀の如し

了りて被具は使部以定む其人取して棄却せむ焼棄るるあり

被詞文例

高天原仁神留坐須皇親神漏伎神漏美乃命以皇御孫命波豐葦原乃水穗乃國乎安國止乎所知食止事依志奉使如此依志奉志皇御孫命乃美頭乃御舍仕奉皇安國止乎所知食年如此知食須國中尔成出武天之益人等我過犯年雜雜乃罪事波天



津罪國津罪許許太久乃罪出武如此出波天津宮事  
 以天津祝詞乃太祝詞事乎宜礼如此宣波天津神  
 波天之八重雲乎伊頭乃千別尔千別豆聞食武國津  
 神波高山乃伊總理短山之伊總理乎搔別豆所聞食  
 武如此所聞食波皇御孫命乃朝廷乎始宣天下四方  
 乃國仁罪止六罪波不在止被賜比清賜事乎所聞食  
 止申須。

但大祭月次臨時祭より御直傳ある後詞と宣ふぞ

○大祭式

此式は春秋兩度の大祭に用ゆ終るも月  
 次臨時其他の祭に於折衷して行べし

祭場の設備

神座をき所にて祭らん。先つ神籬高四尺長二  
 寸と立ち中央に二尺四方の柵に麻一尺五寸程の  
 縄とつけたりと立て。神座とせし又神饌と供む  
 るに於案几を受渡して据るるれども預り供へた  
 くもよし。

次齋主以下着座

次齋主開扉

齋主一揖して座と立。此時奏樂。神座の前にて一揖  
 して座して一揖二拜。笏以持かゝら膝行して御扉  
 を開く。了りて正面に直り二拜一揖して本座に退



く。此時の奏樂は平伏止む祭員又神座をかき所にても降神  
とふとべく。其儀齋主神前にて降神詞と奏とせむ。  
祭員一人齋主に從ひて神前に至り。警蹕三度唱ふべ  
し。和琴預は備を三度管撥むるなり。此内諸員  
次神饌以供す。此樂間  
神饌長副斎一揖座立神座の正面にて一揖座  
して一揖一圖の如く座以り平伏也。他の祭員も  
之に效ふ一同座了れば神饌掛神饌舎より順に  
運び出せ。神饌と末座の祭員より順に受取渡して  
神饌長案上に奉るなり。神饌長の圖の如き順序に  
獻供し。一臺奉る毎に一揖也。了れば末席より各一

拝して本座よりへる。

次祝詞座設く

祭員一人祝詞座祝詞奏せり。三折にたの  
中央を左掌にのせ右手神前に至り一揖座して  
と中央の縁にそへても右つ神前に至り一揖座して  
居座を縦にして右左に開き一揖して本座にへ  
る

次齋主祝詞を奏と

齋主一揖して立祝詞座の前にて一揖坐せ後取  
祝詞と持出で。齋主の左側に座し居一揖祝詞  
渡し一揖して退く。齋主一揖祝詞を取りて笏に  
添四拝し左傍にて開き正面に捧げて讀み了りて



又左傍にてるゝみ。笏にそへて四拝也。次に後取出て一揖也。齋主一揖祝詞以渡せば受取りて一揖して退く。齋主も二度拍手して一拝也。

次一同神徳經以奏也。

祭員一同神座の方の足取少く引き斜にあり一拝。同音に神徳經と読む了りて一拝。二度拍手也。祭員は旧の如く座より直り齋主の一揖。立ちて一揖。本座につく。

次祝詞座以撤也。

先に持出たる祭員一揖して立ち座の前にて一揖。座して居座は左右にもゝみ先の如く持ち一揖して退く。

次玉串案以設く。

祭員一人一揖座立玉串案と持ち左掌と案の中手にて脚の神前に至り一揖して座居案を据置中央と持つ脚の神前に至り一揖して退く。脚と少く押出。一揖して退く。

次齋主以下正串以献也。

齋主一揖して立ち案の前三尺むらりよて一揖して退く。

祭員一人玉串神切紙七八寸に持ち右手と下に齋主の左に就き一揖。持替へて左手と下に一揖して退く。齋主一揖して受取り。持直本串との



神のた右手にて之と案上に置き、四拜四拍手一  
へむく座に復る。祭員の一人或は二三人づゝ一列  
揖して座に復る。祭員一人或は二三人づゝ一列  
にさるもよ一各玉串以持て献す。

次玉串案儀撤す

先に持出たり一祭員一揖して立ち、按前にて一揖  
し。座して居、按取。と両手寄せて、最初の如く、持の脚  
り。一揖して退く。

次神饌撤す此間奏樂

神饌長以下順次に座立立つ。其所作献供の時の如  
し。たゝるへさまなるのみ。撤すをいさる各本座に  
復す。奏樂献供

次齋主閉扉此間奏樂

齋主一揖して立て神前に進み、御扉を閉づ。其作法開  
扉に效へ了れハ一揖して最初の座につく。伏奏樂  
寺開扉  
に同し  
但し降神したる時の。昇神とる儀例とす。其儀降神  
の如く奏詞のゝて進るのみ。

次一同退出

祭全了れば一同一揖して退く

祝詞文例

掛卷 母畏支。大祖參神止。称辞竟奉留。天之御中主神高  
皇産靈神。神産靈神。相殿。尔坐。須。天照大御神。月讀命。彦



火瓊々杵命。木花開耶姬命。乃宇豆乃大前。爾齋主職名。姓名。恐美恐美。母白左久。每年乃例。乃隨。爾三月。乃二十日。与利始。三十二日。秋。乃九。至。留。未。傳。持。齋。未。波。利。持。清。未。波。利。仕。奉。留。半。為。天。御。酒。御。饌。山。野。海。河。乃。種。々。乃。味。物。乎。机。代。爾。置。足。波。志。且。奉。留。狀。乎。乎。氣。久。安。良。計。久。所。聞。食。皇。御。孫。命。乃。大。御。代。乎。足。御。代。乃。茂。御。代。爾。幸。奉。里。給。比。天下。四方。乃。國。爾。波。兵。疫。乃。災。雨。風。乃。害。不。令。有。教。職。等。波。已。賀。向。々。無。久。武。伎。雄。々。志。支。心。以。且。教。乃。道。乎。青。雲。乃。棚。引。極。美。白。雲。乃。向。伏。須。限。里。至。良。奴。隈。無。久。漏。留。方。無。久。布。施。可。久。令。勤。務。賜。比。信。徒。波。心。乃。底。比。清。久。明。久。成。勝。利。且。各。身。乃。分。々。爾。產。業。令。勉。賜。比。且。

他國乃惟志支。教。迷。布。事。無。久。朝廷。乃。御。為。國。乃。為。爾。波。忠。實。爾。令。仕。奉。且。偉。支。功。勲。立。故。可。久。守。幸。倍。賜。扁。止。恐。美。恐。美。母。白。須。

辭。別。且。教。祖。藤。原。武。邦。大。人。与。利。次。々。乃。大。人。等。乎。始。且。第。一。世。乃。管。長。兵。野。半。大。人。乃。御。前。爾。白。左。久。今。日。乃。祭。爾。奉。禮。留。御。饌。物。乎。相。嘗。爾。聞。食。且。大。祖。參。神。乃。御。量。乃。任。尔。神。乃。朝。廷。尔。事。執。乍。仕。奉。給。比。无。窮。尔。變。事。無。久。奇。支。御。靈。幸。倍。給。比。且。教。職。信。徒。等。我。身。尔。毛。家。尔。毛。患。禍。無。久。各。命。乃。後。波。其。行。乃。分。々。尔。原。域。尔。復。命。白。志。且。永。久。久。真。福。蒙。倍。久。教。導。伎。賜。扁。止。恐。美。恐。美。母。白。須。



○地鎮祭

此式の神社とていりめ。人家蔵等と建築せん  
として。新に地と用るとき。行ふ也

祭場の設備

地所の四隅に青竹派たて。注連繩と結ひ廻らる。中  
共に新薦或ハ清砂とす。其上に高案とを志入口  
此左傍に神饌鎮物切麻。米。塩。切麻。及神二  
りかと按にのせ。据り又祭員の座と座き椅子と右  
側に設く

先祭員着床

次神饌と供と

次祝詞と奏

次神饌と撤と

次鎮祭

齋主一揖して起ち場の中央にいたる祭員二人同  
く立ち一人ハ鎮物の臺に一人ハ神を取り齋主に  
尾て中央に至り各一揖にそ連よ糸順次に四隅に  
むらひ一隅毎に一揖し笏を帯に挟み米。鹽。切麻と  
取り一種毎に左右左と撤布き又神を取りて左右  
左と振り之とあへて笏派持ち一揖に但春は東  
南の隅より始め南西。西北。北東。と鎮祭し。夏ハ南西。  
秋ハ西北。冬ハ北東より始て順に四隅にいゑる



次退出

祝詞文例

掛卷 母 畏 伎 此 里 乎 宇 志 波 伎 坐 須 産 土 大 神 乃 御 前 尔  
 恐 美 恐 美 母 白 左 久 今 何 誰 賀 此 地 尔 □ 神 乎 齋 伎 奉 车  
 御 殿 家 家 住 年 建 築 止 為 石 切 伏 土 搔 均 志 豆 突 堅  
 多 留 底 津 岩 根 尔 今 母 往 前 母 地 震 乃 災 洪 水 乃 害 不 令  
 有 守 給 比 幸 倍 賜 倍 止 請 願 奉 留 我 故 尔 御 酒 御 饌 山 野  
 海 河 乃 物 乎 供 奉 豆 御 祭 奉 仕 留 状 乎 平 計 久 安 良 計 久  
 聞 食 豆 常 岩 尔 堅 岩 尔 守 賜 倍 止 恐 美 恐 美 毛 白 須

○上棟祭

此祭を神社とていり家藏等と建築して棟

材はあげたるとき行ふ也

祭場の設備

梁の上に新き板と結ひ渡し新薦と敷き神籬と  
たつ。

先祭員着座

次降神

次神饌供

次祝詞と奏

次神饌と撒

次昇神

次退出



祝詞文例

掛卷母畏支手置帆負命彦狹知命乃御前尔木工職名  
何某恐美恐美母白左久此乃御殿家から作留事波  
不容易業奈留乎大神等乃守給比惠未比給比志加婆  
打都墨繩乃无違事執留手斧母无過支柱梁乎始米互  
凡乃物等可有状尔作訖奴故今日乃生日乃足日尔上  
棟乃壽詞奉仕年止為皇御酒御饌種々乃食物乎奉出  
志豆辭称竟奉留状乎平介久安良介久聞食豆今母往  
前毛彌益々尔恩頼令蒙給布此恐美恐美母白須

○新殿祭

此式は。神社の建築出来して遷宮の前。又家

家からバ移轉の前に行ふかり

祭場の設備

新宮の中央に新薦と一き。神籬はたて。四方に注  
連繩とかけ鎮物。米。酒。と具ふ。

先諸員着座

次降神

次神饌供は

次祝詞と奏せ

次鎮祭

祭員一人一揖して立他の祭員鎮物と以て従ひ神  
前にて一揖し。四隅にむかひ。一隅毎に一揖し。米酒



切麻以撒布く皆左右の業にて三度以又酒了りて本座に復と。

次神饌と撒と

次昇神

次退出

祝詞文例

掛卷母畏支屋船句々迺智命屋船豐宇氣姬命乃御前  
職名何某恐美恐美母白左久今遠山近山乃大木小  
木持參來豆建築豆志此乃瑞乃御殿乃家  
礎波底津岩根乃極美昆蟲乃災无久棟上波青雲乃雷  
久限利飛鳥乃禍无久築立多留柱桁梁戸牖乃錯比動

鳴事無久打堅米太流釘乃緩比取葺留瓦又葺或乃噪  
支无久御床都比乃御の家以と首佐夜岐不令有平介久  
安良介久守給庵止御酒御饌海川山野乃種々乃物乎  
供奉利豆御祭仕奉留状乎甘良尔聞食豆護幸扁給扁  
此白須

○宮門祭

此式ハ鳥居又ハ人家乃門にても新工作り  
たる時行ふかり

祭場の設備

鳥居或ハ門の真下に新薦以敷き神籬以立つ  
先諸員着座



次降神

次神饌以供

次祝詞

次撤供

次昇神

次退出

祝詞文例

掛卷母畏支櫛岩間戸命豐岩間戸命乃御前尔職名何  
 某恐美恐美毋白左久此乃御門以家からバ家湯津岩  
 村乃如久塞坐亞四方四角与利疎備荒備來牟禍神乃  
 言武惡事尔相麻志許里相口會給事无久自上任婆上

乎護利自下行波下乎守利待防掃却言排坐亞門此下へ  
 門朝開波門平開波參入罷出人名乎問所知志豆  
 平計久安良計久守給比幸給扁止御酒御饌種々乃味  
 物乎供奉利亞御祭奉仕良久乎甘良尔聞食世止白須

遷座式

此式ハ、仮殿遷座本殿遷座の二つあり。仮殿遷座ハ、從來の神殿以造替るの或ハ修繕せる為一時神体と仮殿へ遷奉る云ハ本殿遷座と云ハ本殿建築修繕出來て仮殿より遷返奉る云ふ。されども名ハお替れ行事の次第ハ異なることなむ。左の一式にて通用をべし



又新に神殿たぐらに構へ本祠もとの御分靈みまかと奉祀ほうしせ  
るときも此式このしきに斟酌しんしやくして用由もちよべし

祭場の設備

本殿ほんだんの裝飾しやくし恒とこの如ごとく仮殿かりだんの内外うちそととくらひ清きよめ  
て外面がめん四方しやうほうに注連繩しゆれんじゆと引ひき左ひだりの品々しんしんと具もふ

白杖しろじやう二本にほん

三尺さんしやくの梅うめの枝えだに  
三寸さんすんの櫛くしを  
つけり

行障ゆきざう二張にぢやう

繩じゆを長ながく四尺ししやくに  
して、杖じやうの  
間に、

絹垣きぬかき一張いちぢやう

割わりり有ありて無なく  
之これに、

御羽車みはねぐるま一具いちぐ

御神みかみの體たいと  
載のせり

真榊まきさき二本にほん

五尺ごしやくの  
時ときに及および

榊さき楯たて各ご二に

木きに  
重おもく

弓矢ゆみや

矢や二に本ほん

先祭員まゐり着座あはす

次齋主つぎ開扉ひらひ此奏樂そうがく間ま

次神饌つぎと供ともと此奏樂そうがく間ま

次祝詞つぎ

次神饌つぎと撒まひ此奏樂そうがく間ま

次御羽車つぎと殿内だんないに移うつり

祭員まつり數人かず階下かいかの御羽車みはねぐるまと殿上だんじやうに昇あり



次御神体と御羽車に移り

齋主副齋主一揖座立正面にて一揖二拝副齋

主立ちて幌とかく齋主内陣に入り御神体と奉

持り御羽車にうつし奉る副齋主幌と垂れ御扉と

閉づ絹垣持ハ御羽車以圍ミ行障持ハ左右より之

と掩奉る

次御羽車と駕丁に昇りむ

祭員御羽車と昇奉殿と下り駕丁にうつしむ齋主

以下従て殿と下る

次出御

前驅警蹕と唱ふ三杖、と

行	前驅	白杖	杖	真柳	真柳	樂人	樂人	楯	楯	弓	矢	桦	桦	祭員	祭員
列	御羽車	齋主	副齋主	祭員	祭員	祭員	祭員	祭員	祭員	祭員	祭員	祭員	祭員	祭員	祭員

次仮殿着御

前驅警蹕と

次殿内へ御羽車と昇入る

次齋主開扉

次入御

齋主副齋主御羽車の前にて一揖副齋主幌と

く齋主内陣に入りて御神体と御座に安置と副齋

主幌と垂れ齋主と共に一揖して座につく



次神饌と供  
 次祝詞と奏  
 次玉串案設  
 次玉串以献  
 次玉串案と撤  
 次神饌と撤  
 次開扉  
 次退出

○祝詞文例

仮殿遷座本殿祝詞

掛卷母畏支口大神乃御前爾職名何某恐美恐美母白

左久天乃御蔭日乃御蔭止隱呂比鎮里坐須此御殿乃  
 許々良乃年月乎經耳自然尔朽損波礼奴留賀故尔此  
 度改米造利修修米糲比上奉良牟止為故今日乃生日乃  
 足日尔仮宮尔遷坐奉良牟止為御酒御食種々乃物  
 乎供奉良久乎甘良尔開食支神隨遷幸坐勢止恐美恐  
 美母白須

同上仮殿祝詞

掛卷母畏支大神乃御前尔白左久今日乃生日乃足日  
 尔此乃仮宮尔遷坐奉里豆御酒御饌魚菜種々乃味物  
 乎置供豆仕奉留状乎平介久安良介久聞食豆暫時我  
 間穩尔鎮坐世止恐美恐美母白須



本殿遷坐仮殿祝詞

掛卷母畏支。□大神乃御前。爾職名何某。畏美母白。  
左久。往志。□年。□月。□日。爾御殿乎。改米造利。或糴修奉。  
良年止。為耳。此乃仮宮。爾遷座。世奉。神支。然。此乃。□日。  
尔至。利。互。功。竟。奉。神。志。加。波。今日。乃。生日。乃。足。日。尔。本殿。  
尔。遷。志。鎮。米。坐。世。奉。良。久。止。恐。美。恐。美。母。白。須。

同上本殿

掛卷母畏支。□大神乃御前。爾職名何某。畏美母白。  
左久。八。十。日。波。有。礼。拜。母。今日。乃。生日。乃。足。日。尔。本津御。  
殿。尔。遷。志。鎮。米。坐。奉。耳。御。酒。御。饌。山野。海。川。乃。種。々。乃。味。  
物。乎。供奉。耳。御。祭。仕。奉。留。状。乎。平。介。久。安。良。介。久。聞。食。耳。

此乃御殿乎。安宮乃。静宮止。舊乃。如。久。穂。尔。鎮。坐。耳。長。久。  
久。久。御。恩。頼。令。蒙。給。幣。止。恐。美。恐。美。母。白。須。

○大袷式

此式ハ六月三十日と十二月三十一日と年  
に西度行ふ

式場の設備

祠宇或ハ教會所。教會所。別會。所。神。籬。と。樹。内。の。庭。上。に。按。  
據。系。上。に。筒。と。立。大。麻。三。尺。む。の。樹。の。紙。と。結。く。  
ひ。つ。け。た。と。挿。と。前。に。被。主。の。版。位。設。別。に。倚。子。  
新。薦。何。小。ま。れ。便。宜。に。任。せ。敷。き。て。式。に。あ。つ。か。る。  
教。職。等。の。座。と。は。



午後二時諸員着席

次祭員一同殿に登る

各一揖上座のものより順次に上りて殿上の座につく

次開扉

次神饌と供は

次祝詞披露奏は

次祭員再び被の座に着く

次被主大被の詞と奏は

被主一揖座と立版位の前にて一揖一座して一揖懐中の被詞と取り笏にそへて二拝一斜に

参集人の方へ向ひて讀む了りて又神座に向直り二拝一四拍手一揖して本座に退く

次切麻及大麻を取て被ふ

祭員二人各一揖一座と立ち。按の前にて一揖一人の切麻と一人の大麻を取り。祭員及参集人被被ふ。左左右右こと三度了りて使部に渡して本座に復は

次祭員一同殿に上る

次神饌と撤と

次閉扉

次退出



次大麻及被物と流し捨てむ

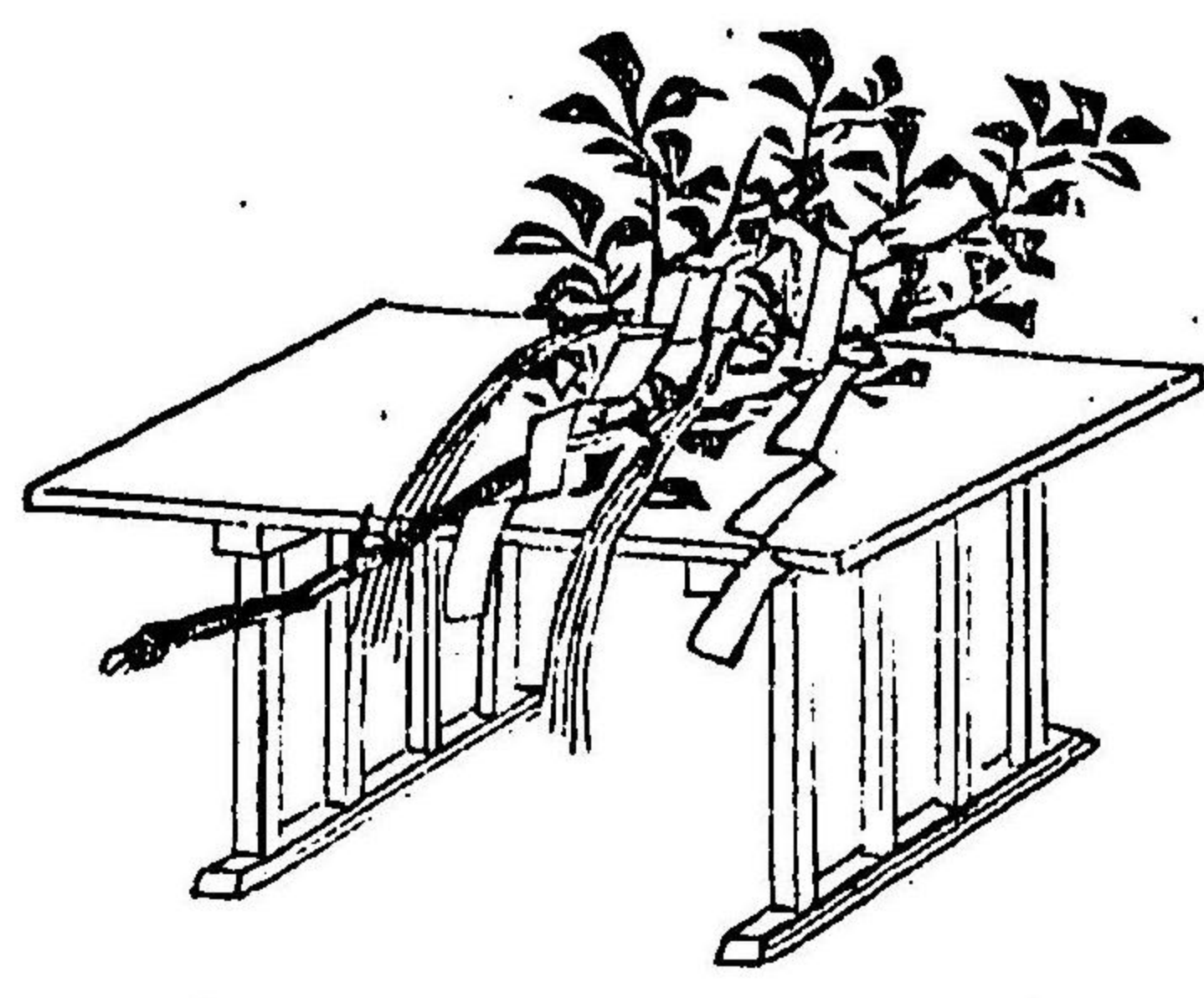
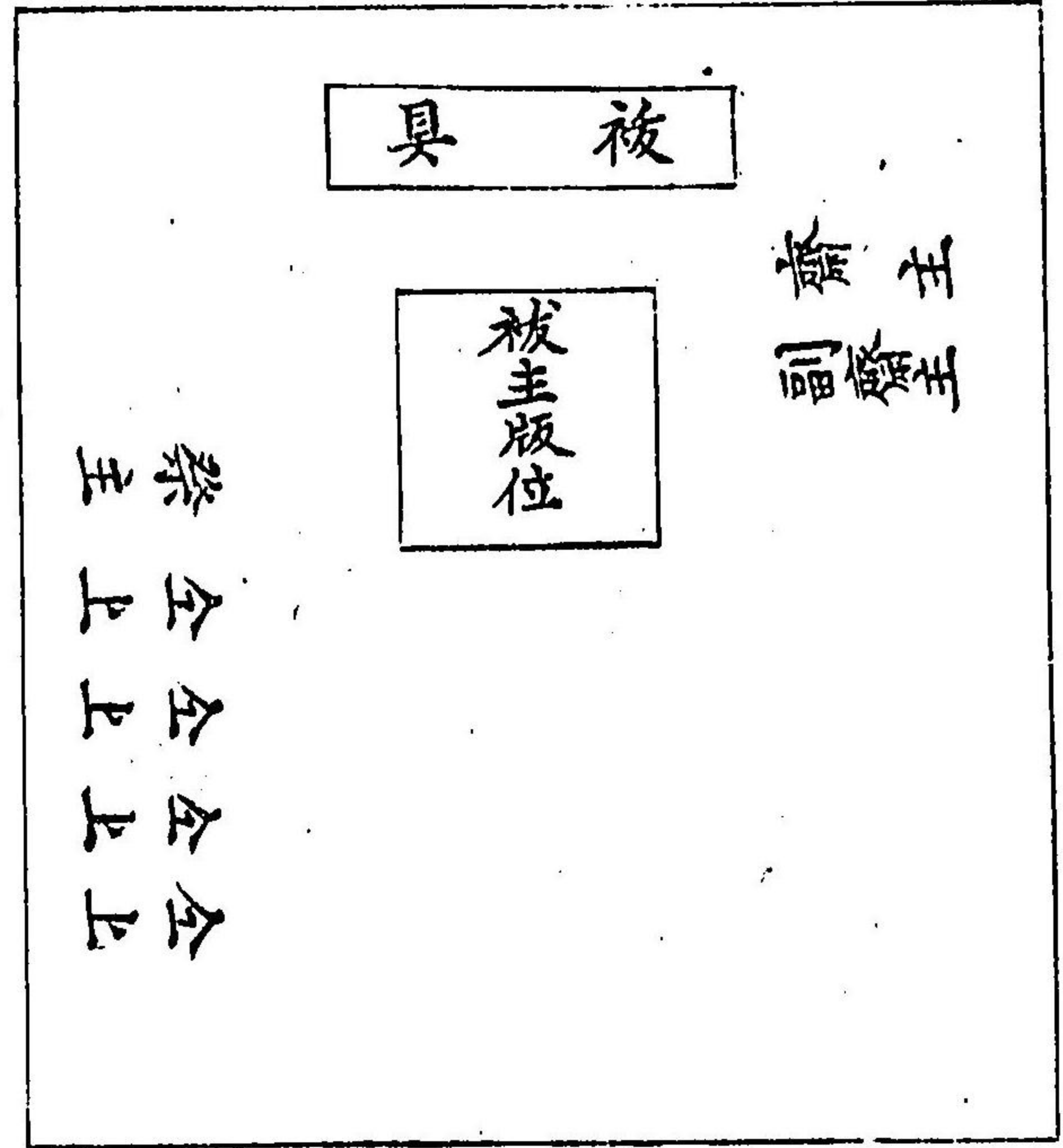
祝詞文例

掛卷母畏支□大神乃御前尔職名何某恐美恐美母白  
左久此乃教乃管長乎始互教會所にて此乃教此乃  
席尔寄来集倍留教職信徒等我過犯気年雑々乃罪穢  
乎今年六月又月乃今日乃夕日乃降尔被物乎置座尔  
置乎被清年留状乎聞食互被給比清給倍止御酒御食  
種々乃物乎供奉互乞祈奉良久止白須

大被詞ハ烏帽子岩直傳に於れハ畧

裝飾及器具の圖

被座所の取の圖



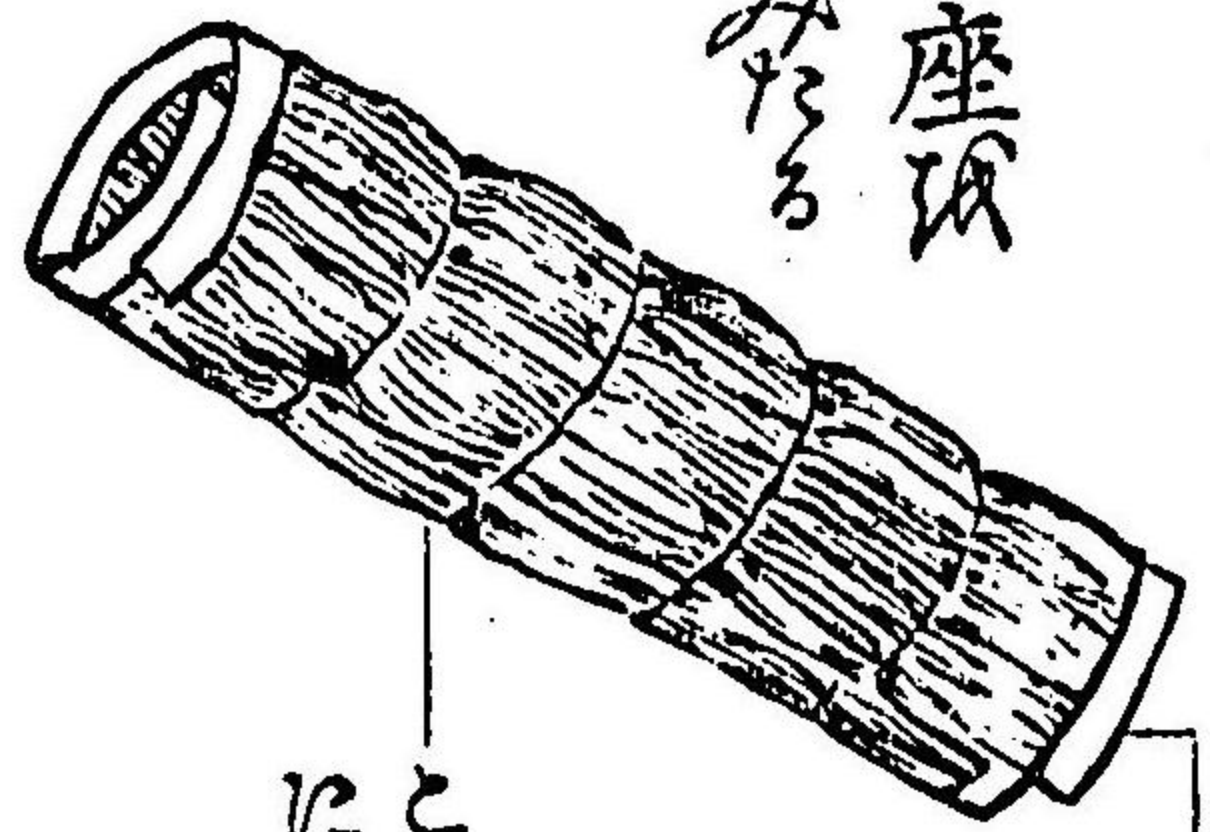
被案に被具とのせたる圖



齋主も後に取座取の圖



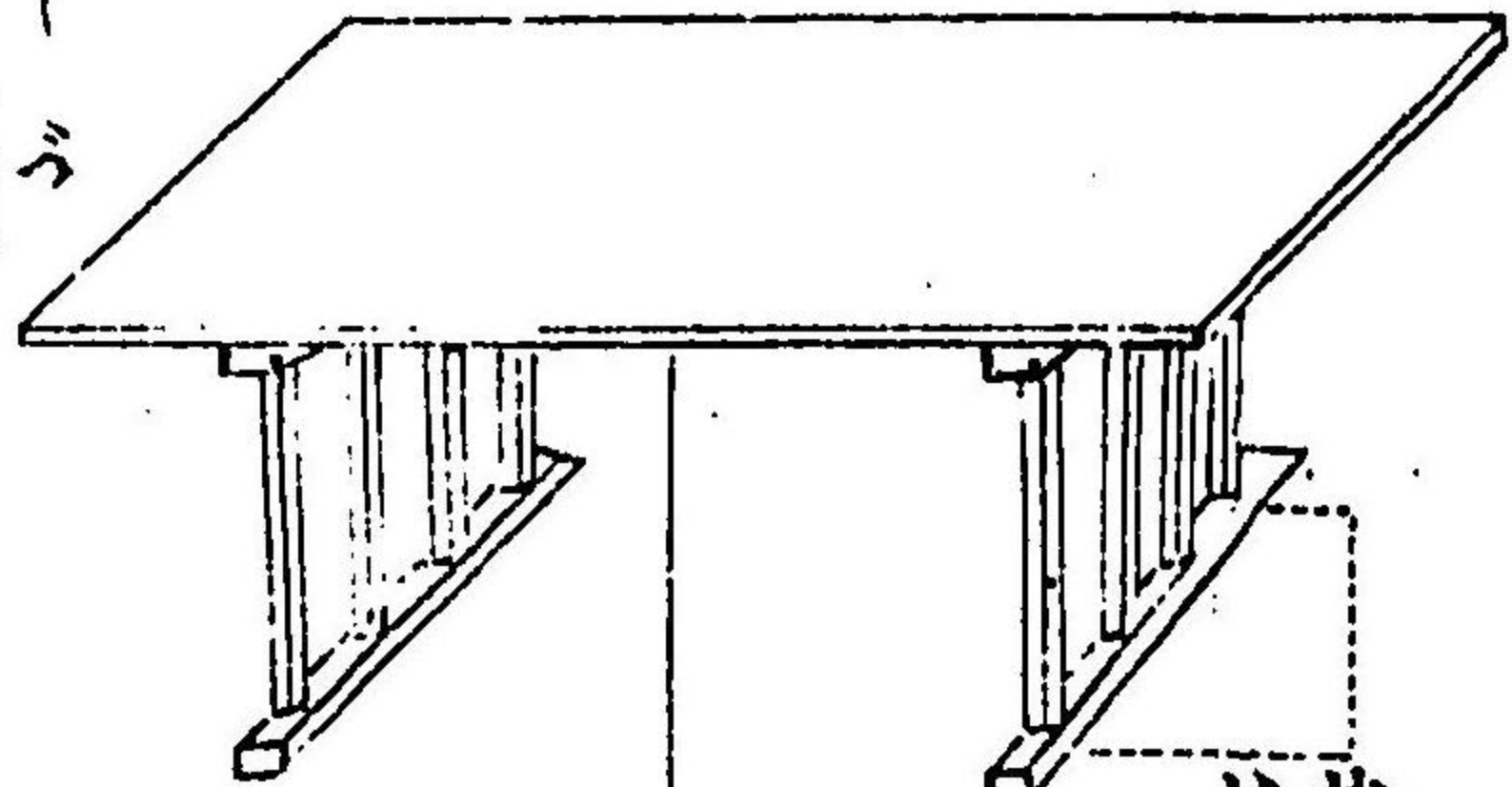
祝詞座取  
たみたる



この外は右の手に  
いもつ

この外は左の手に  
載は

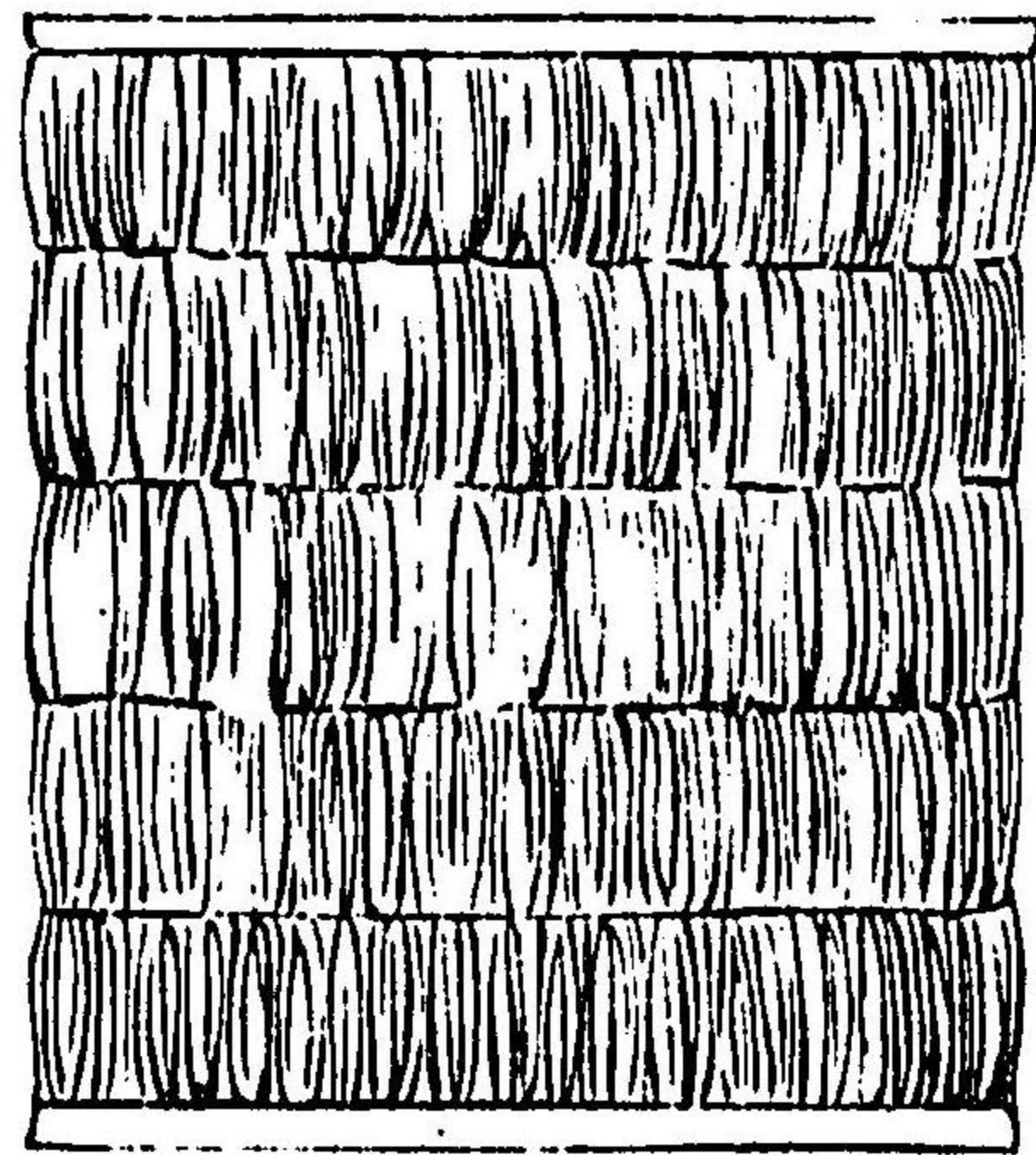
玉串の按圖



此処と  
右の手に

此処と  
左の手に

枝主版位



祝詞と務にそへ  
もつ圖

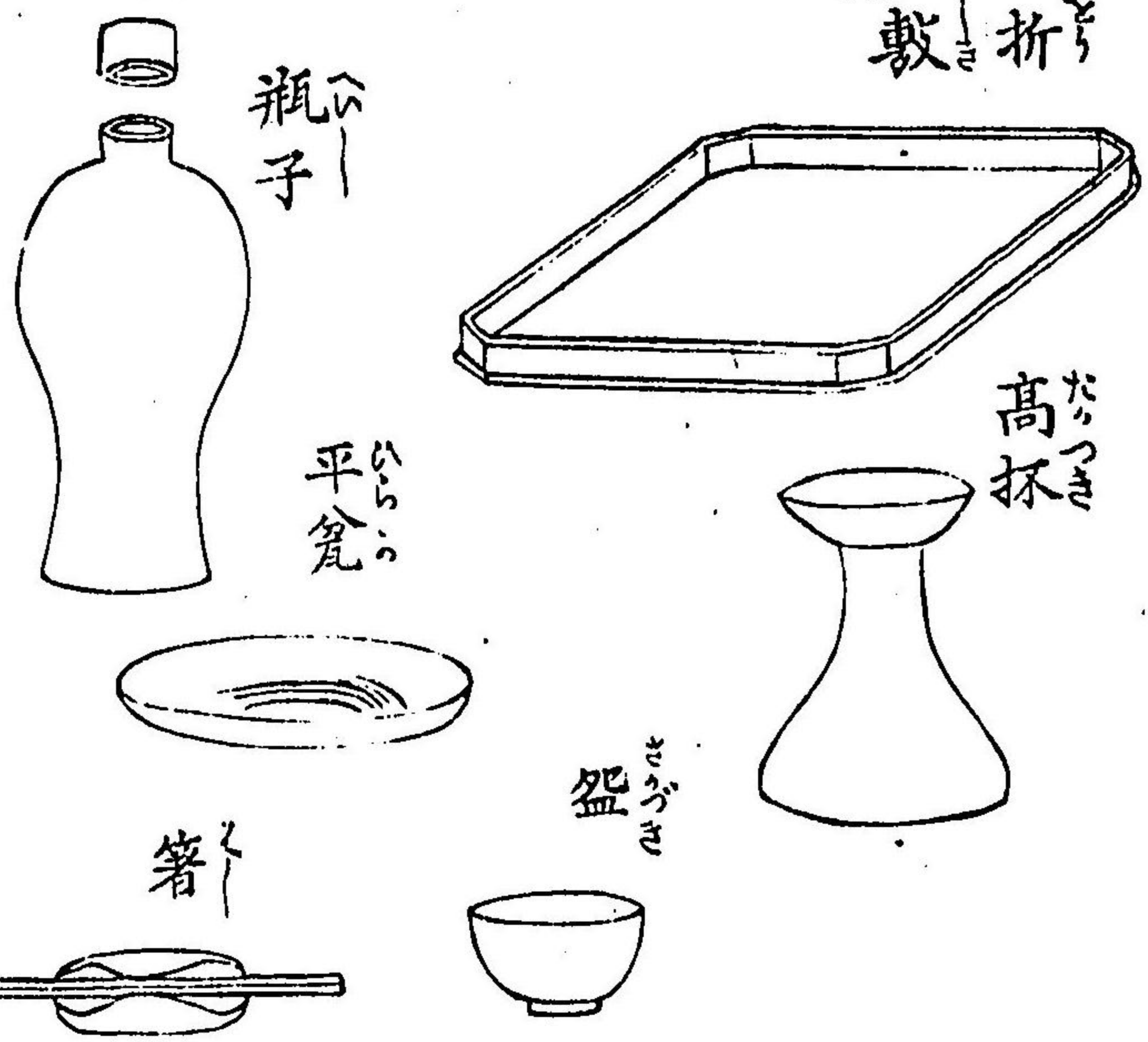
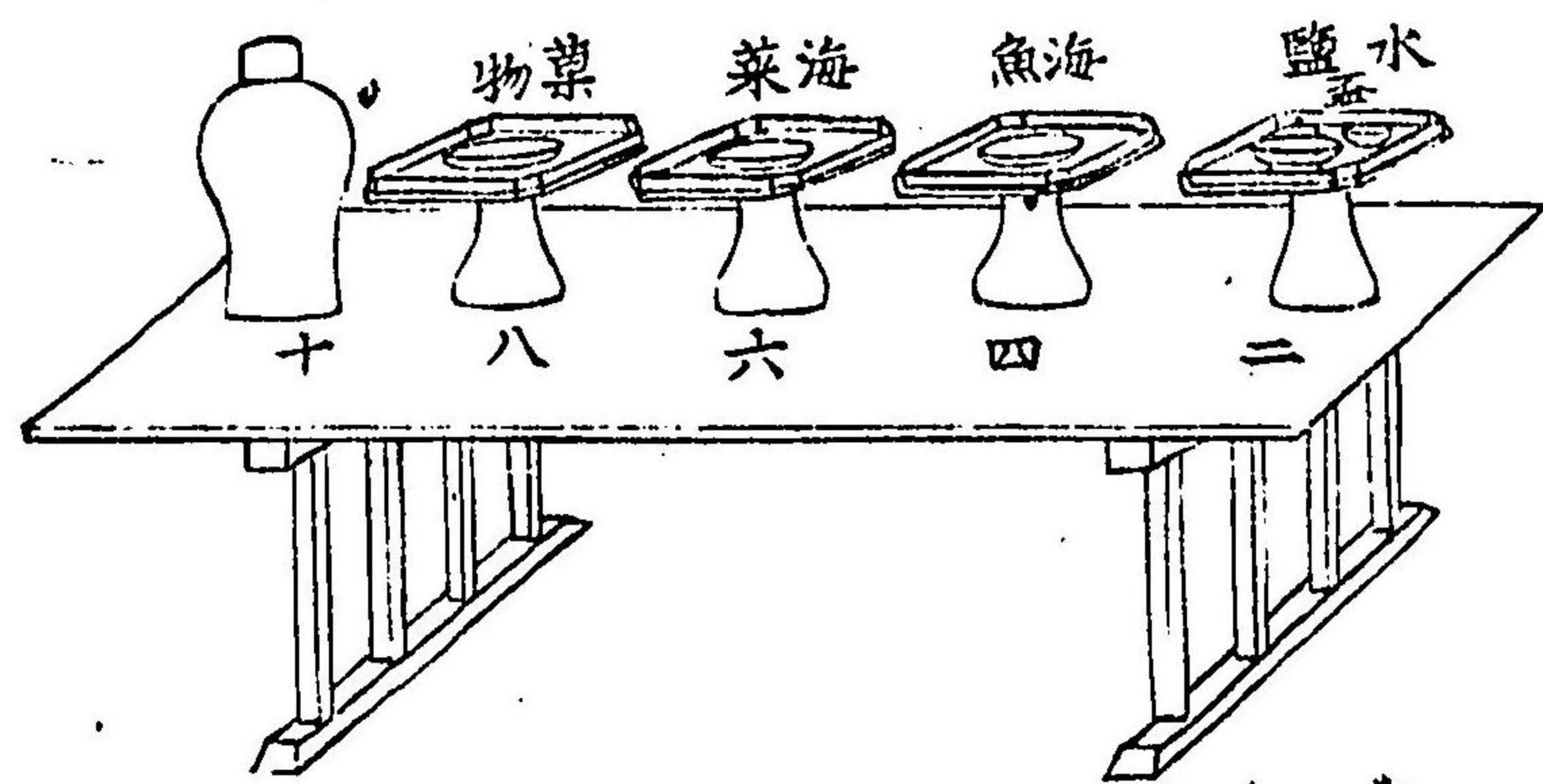


神と持つ圖

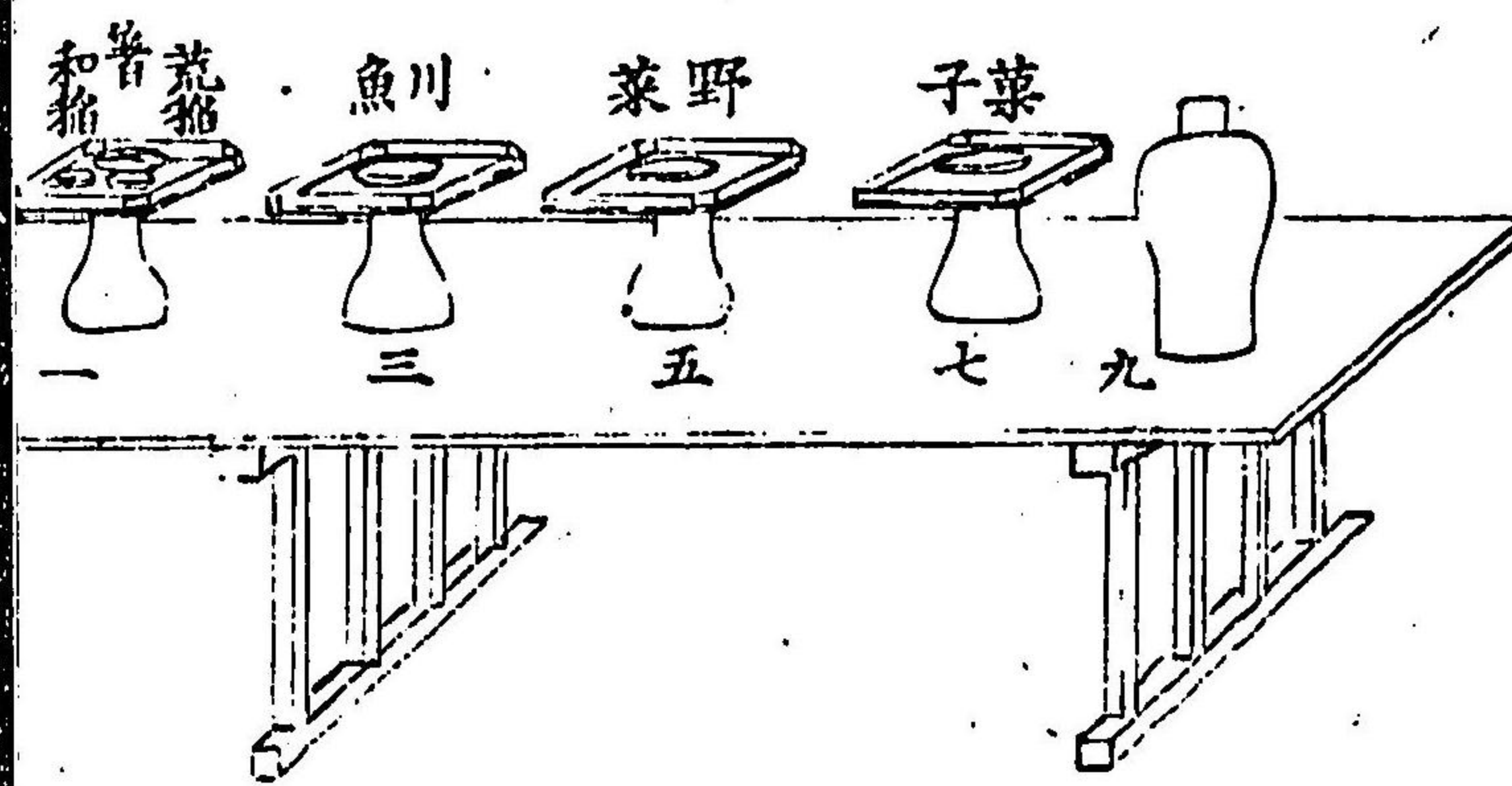




備の圖



神饌の献



神饌傳供着の圖

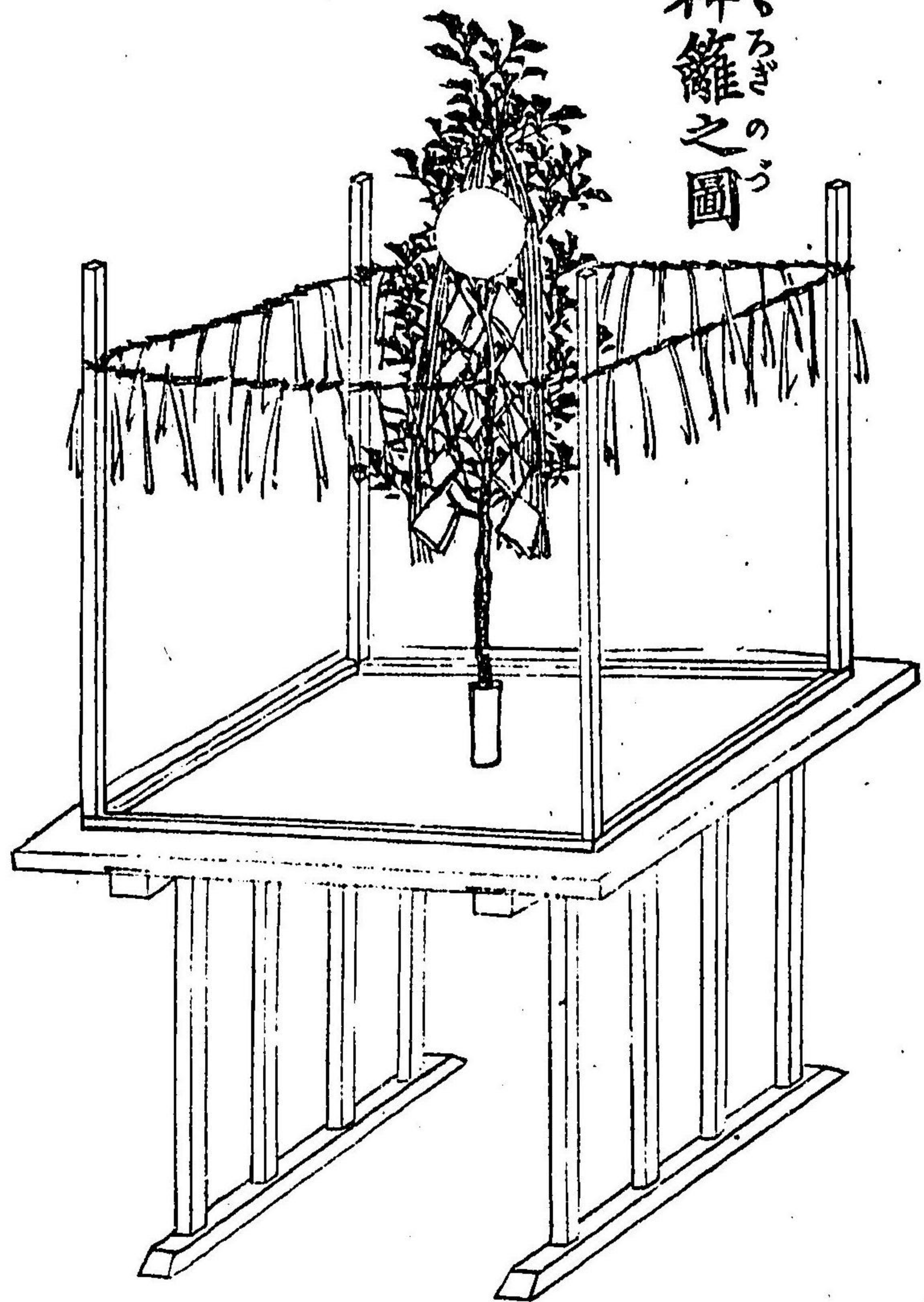
神	巫
神饌按	
神饌長	主祭
手長 手長 手長 手長	

神と前着座の圖

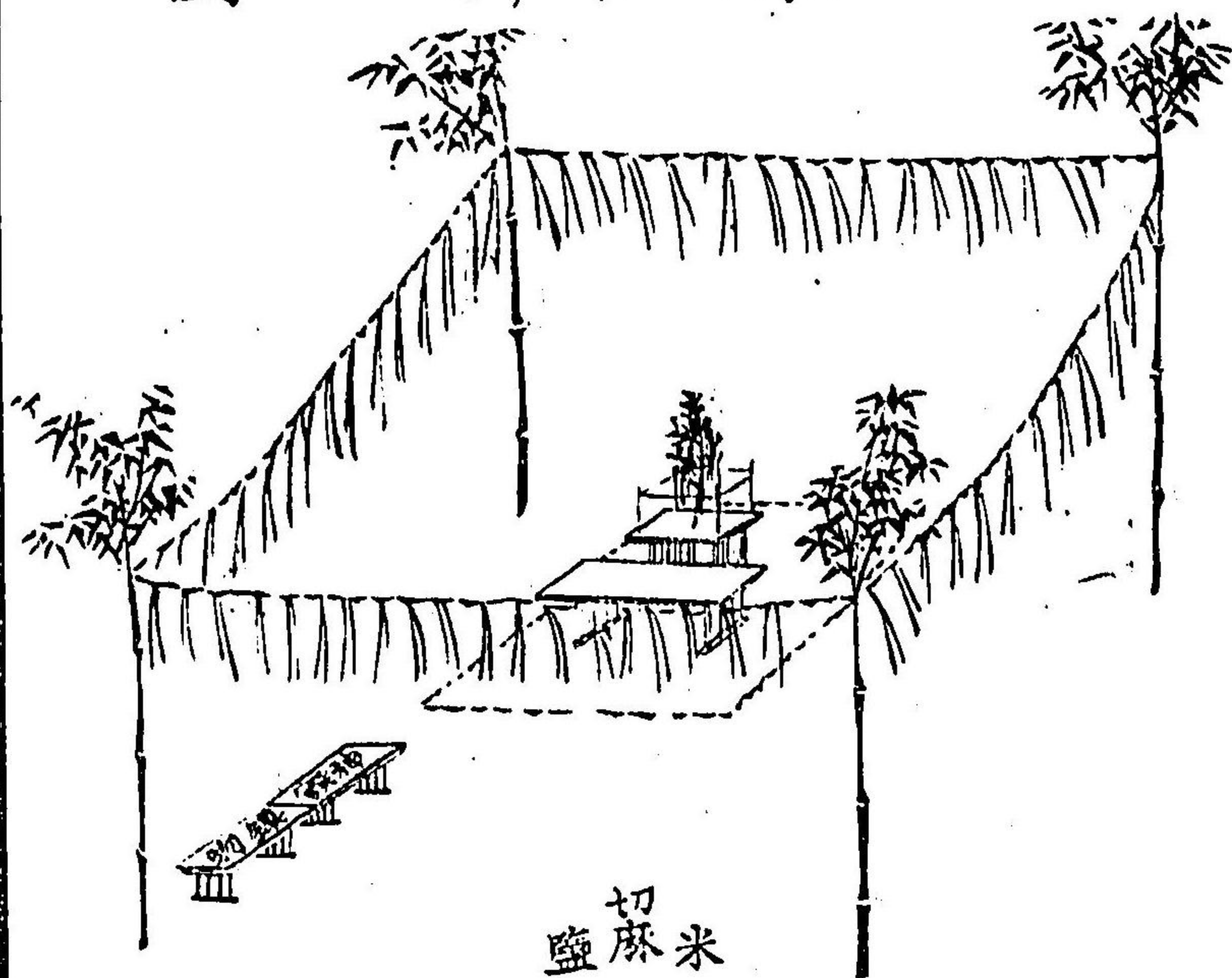
神	巫
主祭 副祭	
祭員	



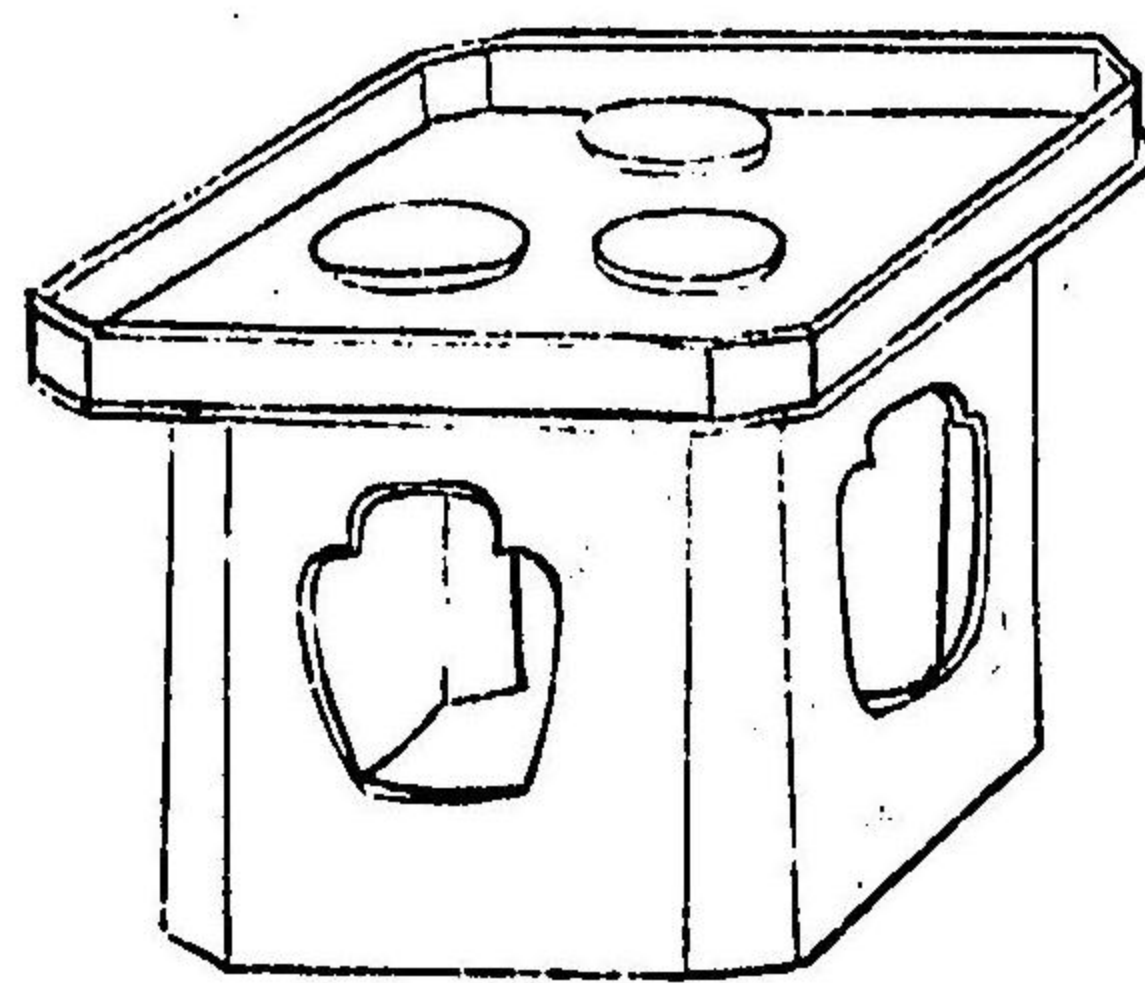
神籬之圖



地鎮祭の場之圖



切麻米 鹽



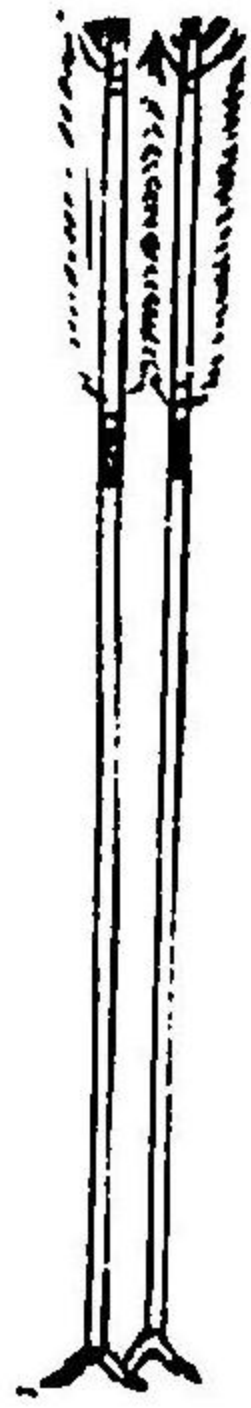
鎮物の圖



左右同  
右ハ玉鏡と掛  
左ハ劔と掛

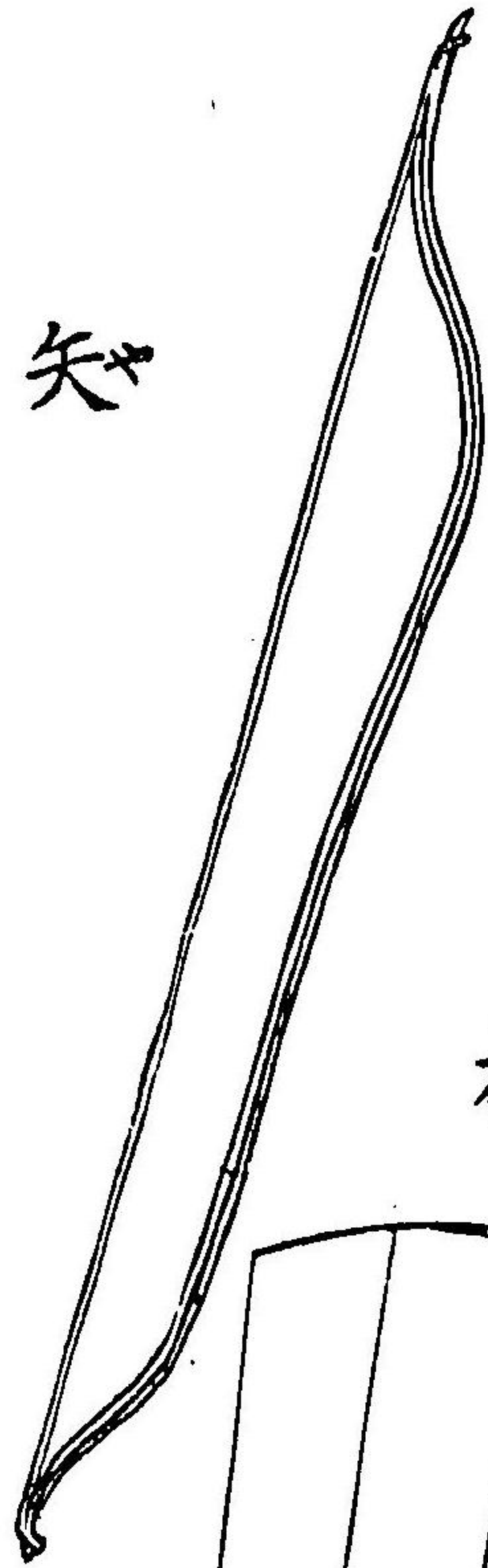


真神

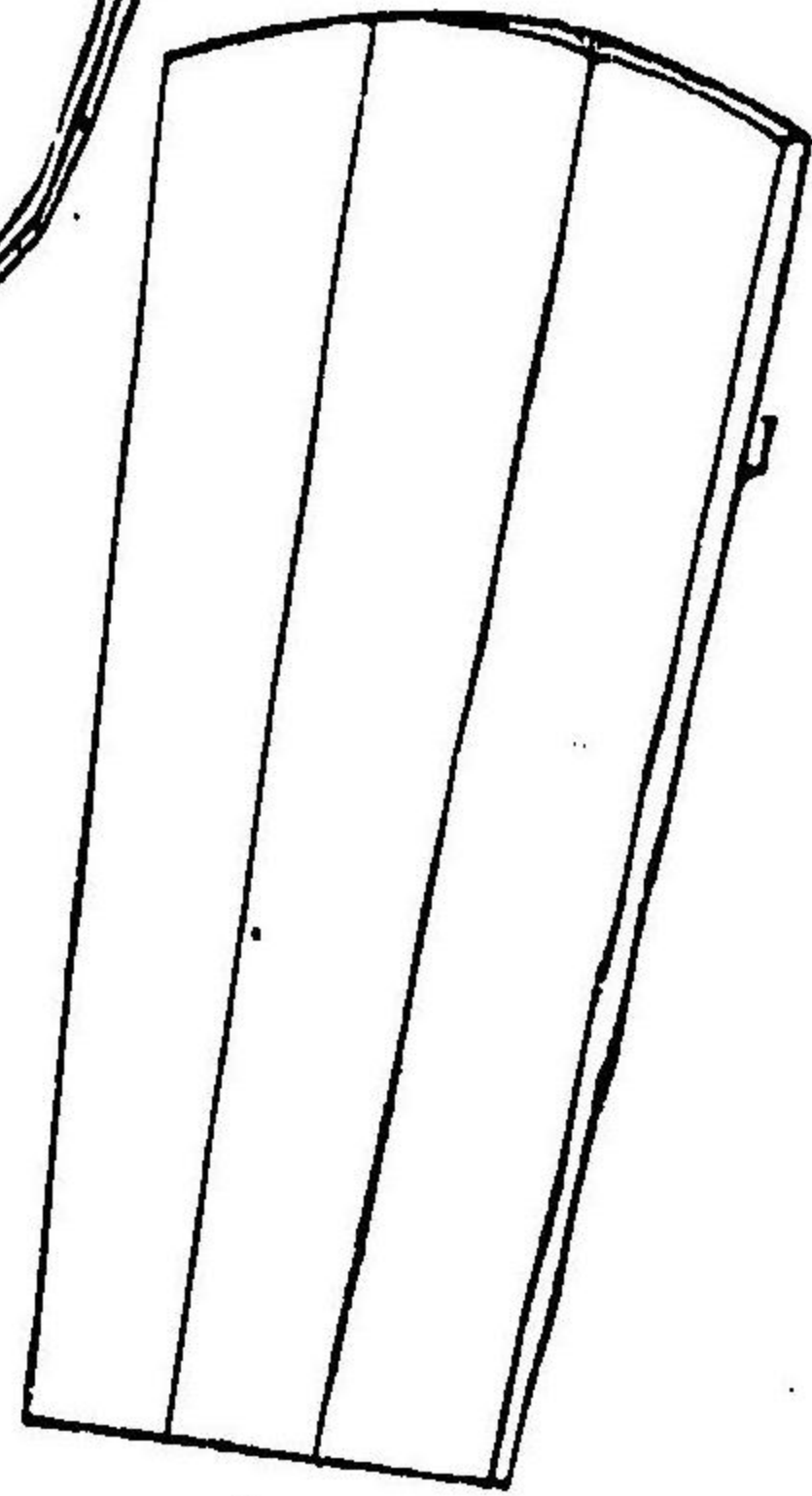


矢

弓



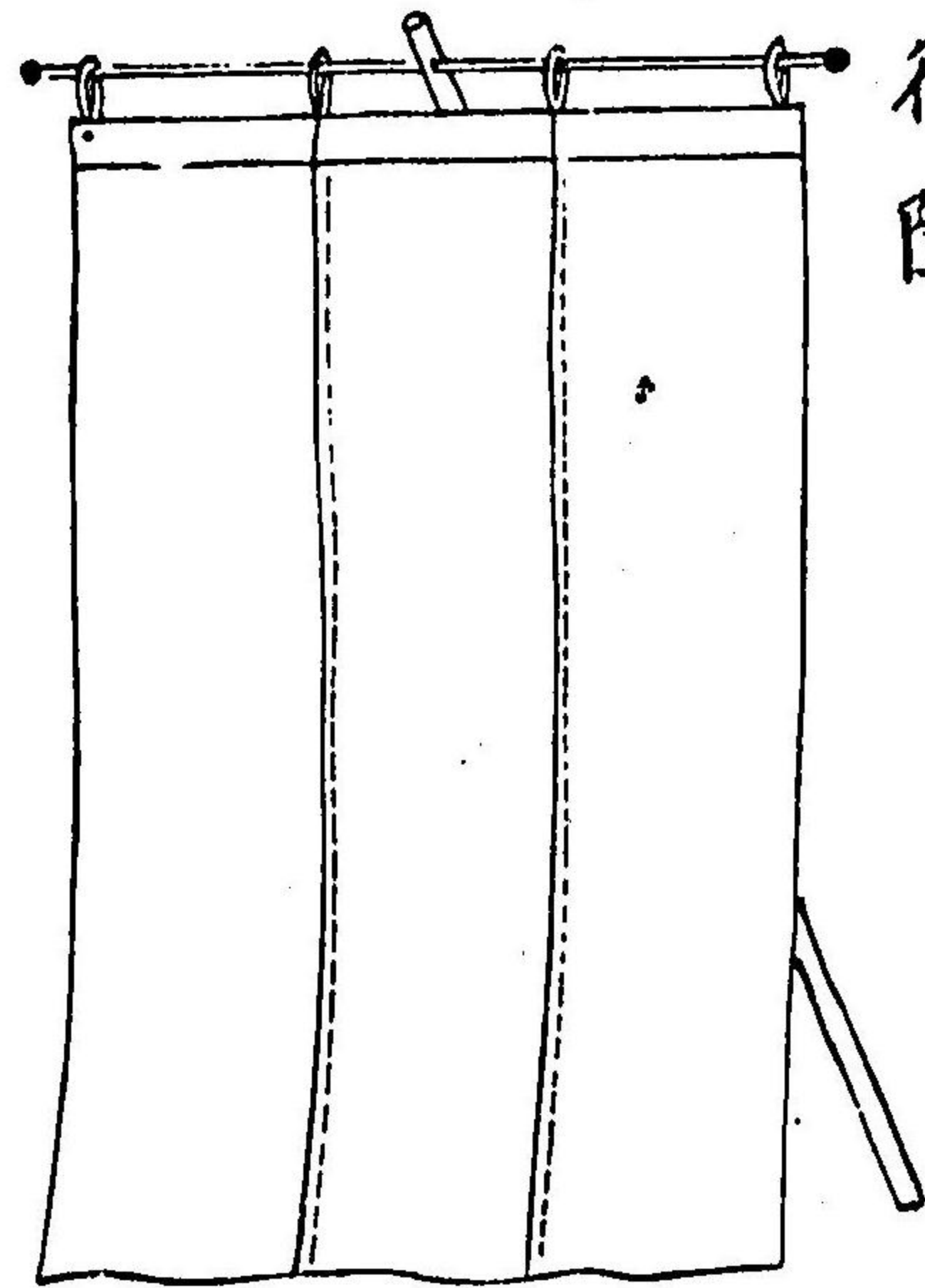
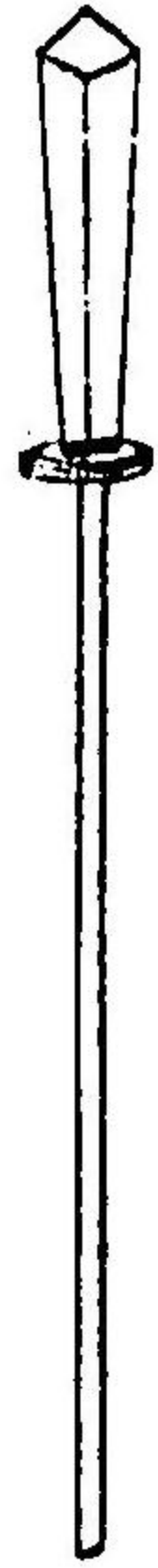
楯



白杖



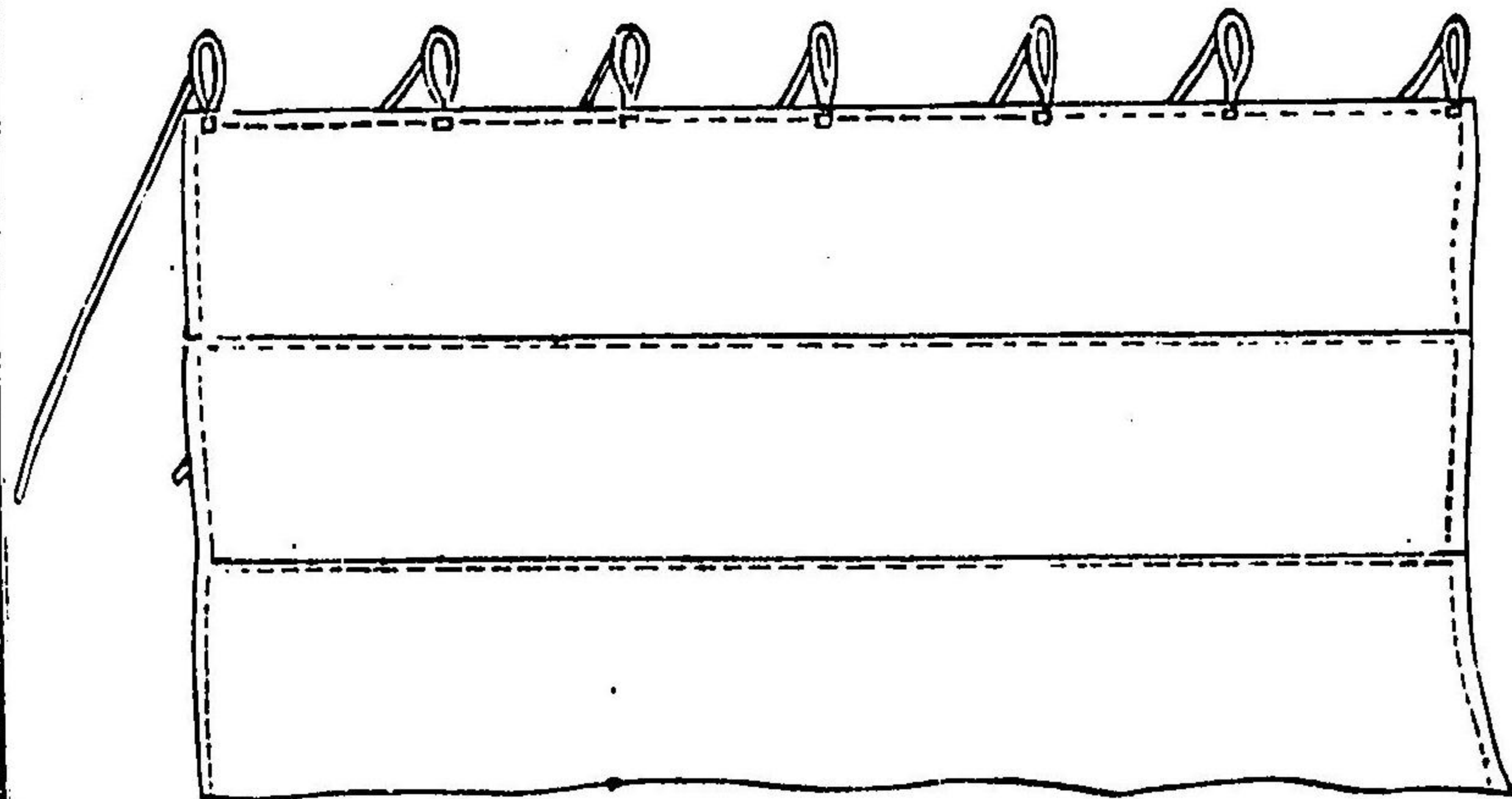
鉾



行障

垣

絹





大祓取の圖

神饌

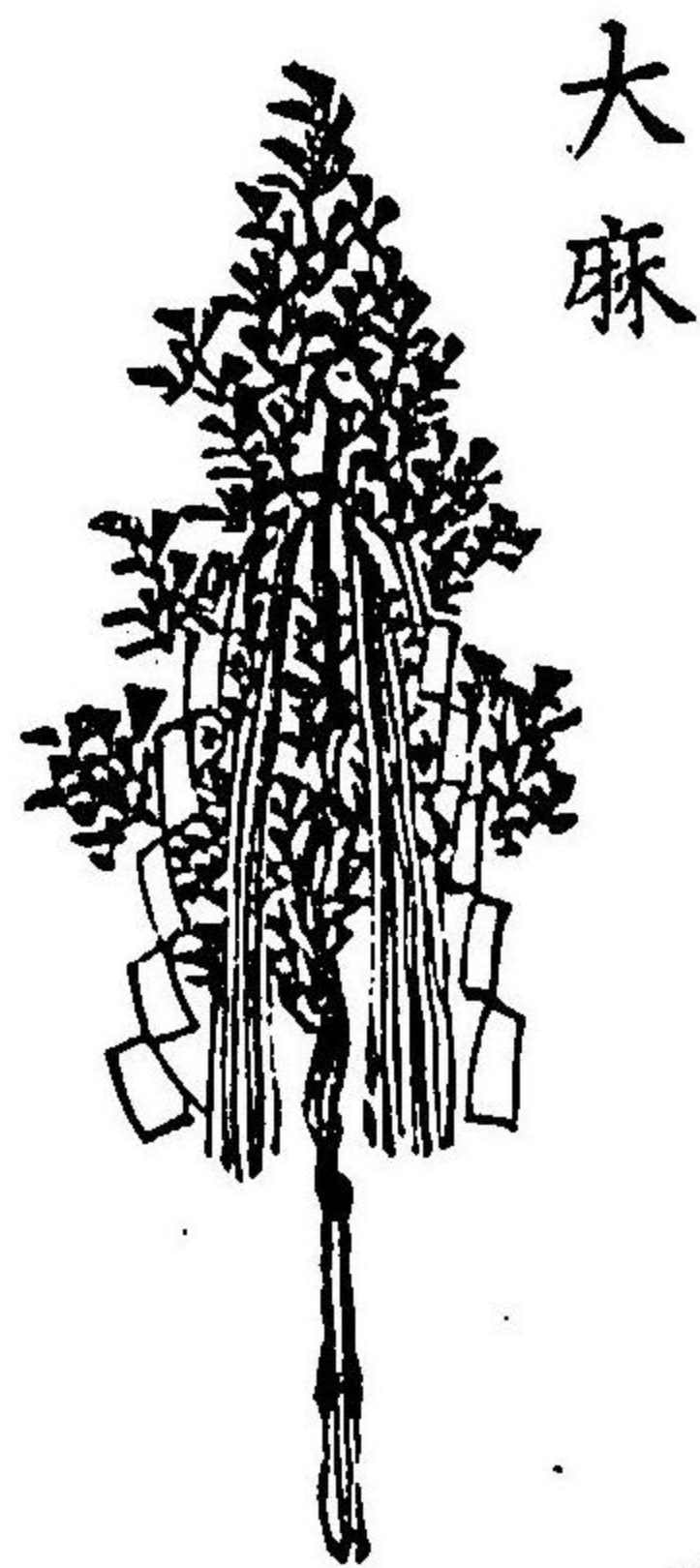
神饌

神饌

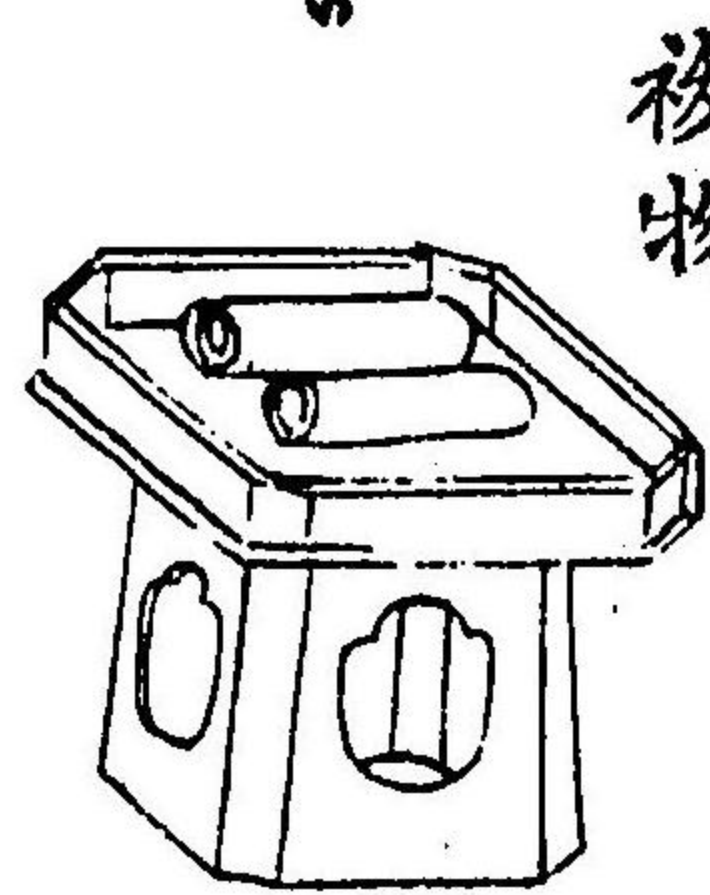
上庭

神具及杖物

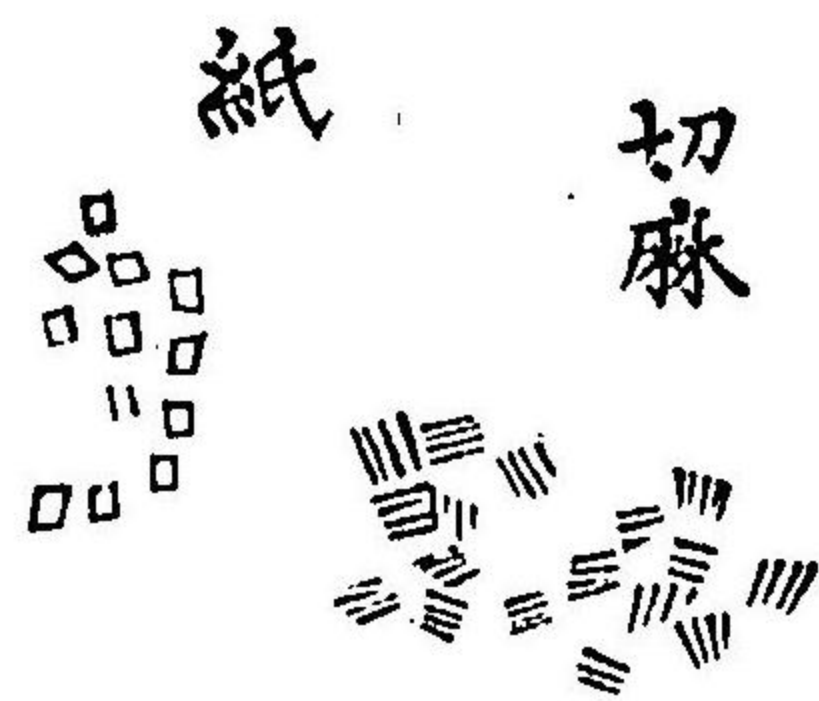
神座



大麻



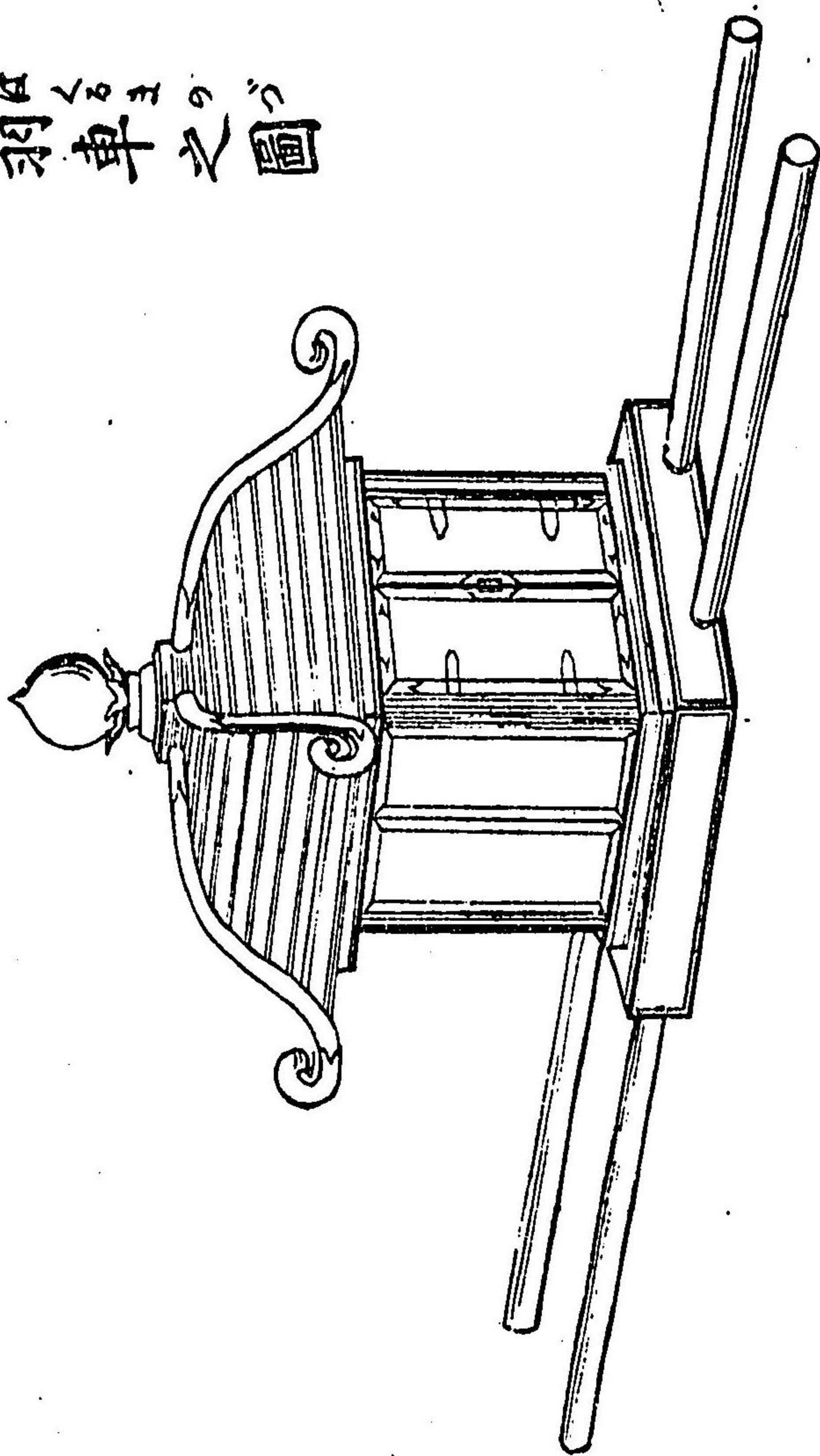
祓物



紙

切麻

御羽車之圖





版權登錄

明治廿三年一月二十日 印刷  
全 年同月全日 出版

版權所有

印刷兼  
發行人

枋木縣平民

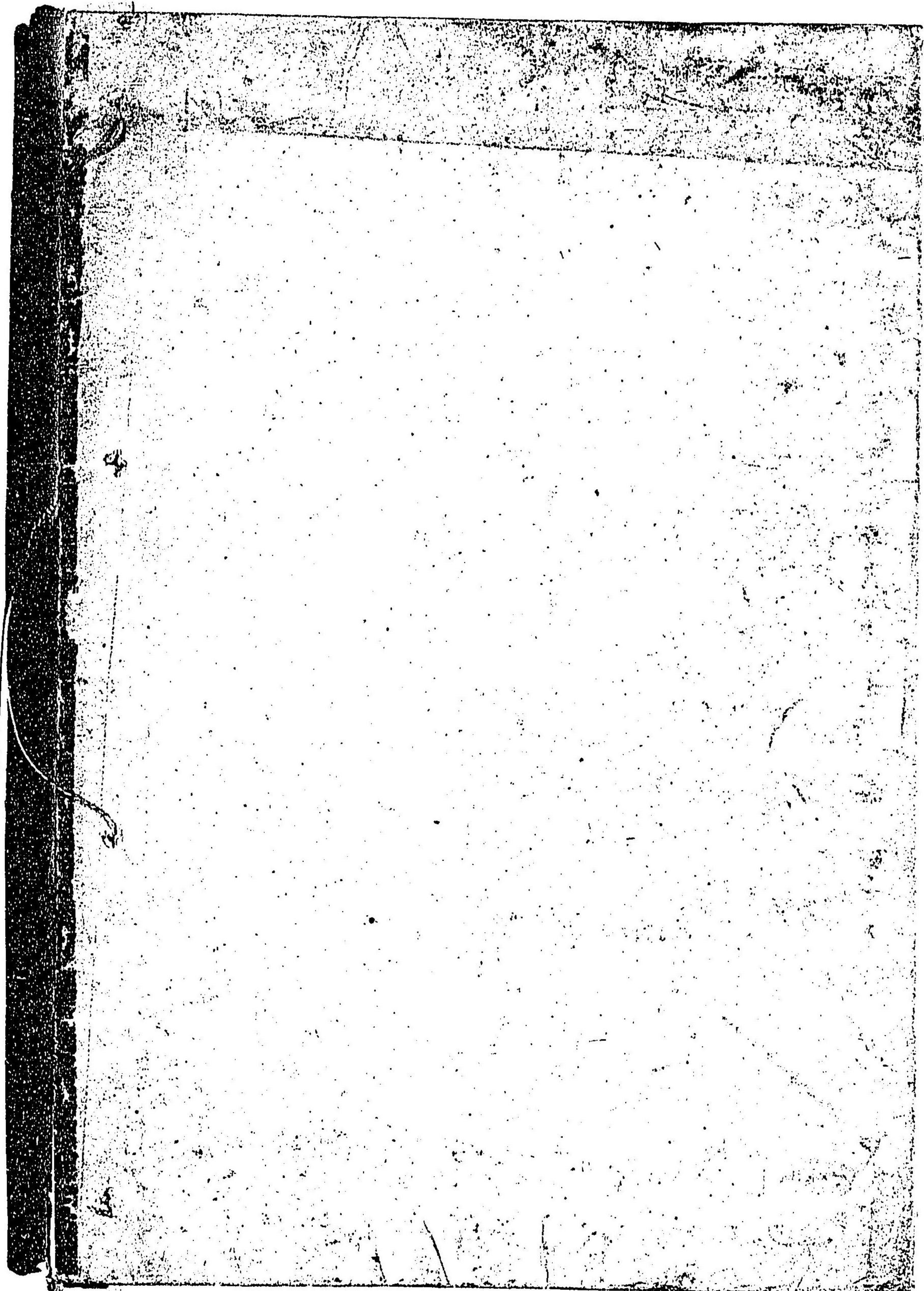
高崎市藏

東京市芝區神明町廿番地

118

118







特35

877

014593-000-4

特35-877

扶桑教祭祀式上

桜井 松寿 / 編

M23

ABB-1012

